

# おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 12 号 (7 月 23 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Yリーグ 連敗を喫する

7月18日(土)、20日(月)とYリーグ2連戦が行われました。会場はどちらも日大山形サッカー場。18日の対戦相手は日大山形。雨によりグラウンドは緩くなっているものの、まだ大きな水溜りなどない、「降り始め」のピッチ状況。山東は主将の三澤を怪我で欠くなど苦しい布陣でしたが、こういうときに問われるのがチーム力(実力)。日大相手にどんな試合となるか、不安ながら期待も交錯する心境でキックオフを見守りました。

序盤、日大は競り合いの厳しさでボールを支配し、山東サイドのピッチで試合をし続ける得意の戦法。山東は体を張り切れていない「軽いプレー」が目立ち、なかなかボールを収めることができない。日大の選手は1対1のマッチアップにて、常にボールを前でカットできるよう体の準備・心の準備ができています。「こういうパスが来たらすぐ相手の前に体を入れよう」などという、守備におけるイメージができており、山東の選手の中途半端な技術をまったく発揮させてくれない。すると、日大のCKにおいて、ニアサイドのヘディング勝負で決着がつかず、ゴール真ん中からややファーサイドへとそのままボールが流れると、山東の選手が相手マークに付き切れずフリーにし、フリーの敵にゴール至近距離でそのままシュートされ、ゴールイン。甘い競り合い、ボールウォッチャーになること(ボールばかり見て周囲への注意が散漫になること)が如実に現れた失点シーン。総体の地区予選にてCKから決められたので、日大のセットプレーは要警戒であることはわかっていたはずなのに・・・。

しかしその直後、左サイドから攻め込んだ際のセンターリングが敵GKのファンブルを誘い、ゴールイン。雨の影響でボールが滑ったか、結果的にセンターリングならぬシューターリング(山東サッカー部における造語)となる。同点となると、山東の攻撃陣が俄然活気づき、左から右へ流れるようなパスワークから、右サイドハーフ賢祐がゴール前でフリーでシュートを放つも、力みすぎてGKの真ん中へ。またその後のCKで決定的シーンを迎えるも、決めきれず。弱いチームが少ないビッグチャンスをもものにできなかったら、勝てるわけがない。

その後、CKからもう1失点、そして速攻からサイドを崩されもう1失点で、計0-3で折り返す。後半も日大ペース。三度、CKからマークに付ききれず、真ん中からファーにかけて敵をフリーにし、失点。1失点目とまったく同じ形からの失点。日大の選手は「ニアサイドからボールがこぼれてきたらチャンス」という状況において、その状況が訪れることを信じて、または、その状況が訪れても良いようにしっかり準

備して、体を投げ出しているにもかかわらず、山東の選手はニアサイドでの競り合いを（ボールを）見て、マークをはずしている有様。結局、前半好機を2度作ったものの、後は見せ場なく、やられ放題で1-4の完敗。日大の強さを感じるとともに、の弱さ山東（ひ弱さ）を痛感。Yリーグ暫定1位の座を、あっけなく日大に譲り渡しました。

20日（月）は東海大山形戦。前日までの雨が上がり、ピッチ状況は最高とは呼べないものの、十分。東海は技術に勝る選手が多いため、翻弄されないようにしたいと思いつつ試合に臨みました。そのためには日大戦で徹底できなかった競り合いにおける粘り、先にボールに触るための準備が必要であることを試合前に伝え、ピッチに送り出しました。

試合序盤、山東は出足が良く、ボランチが敵ボランチとマッチアップに勝つシーンや、サイドバックが敵サイドハーフに仕事をさせないシーンが目立ち、日大戦の反省が活きた立ち上がり。五分五分ながら、やや山東優勢の前半。ただ、何となく攻め込むが、松永がグループで狙いバーを越えたシーンを抜かしてゴール前で決定的なシーンを作れず、またはシュートまで行くことができず、「攻めきる」ことができない。

後半は時間を追うごとに東海ペース。山東は徐々にプレスが遅くなり、選手と選手の間が空くものだから、対応が後手後手となる。また、足が痙攣する選手や、体調不良になる選手が出て、敵との戦い以前の問題で躓いていく。不用意なハンドで与えたPKを決められ、0-1。試合時間は残り15分ほど（後半29分）。交代出場の千葉を慣れない右サイドハーフで起用するなどして、何とか一発返してほしいと思っていると、後半37分CKを得る。試合前に、「ヘディングが大して強くもないのにヘディングで勝つことばかり期待して同じ軌道のボールを蹴るのではなく、ショートコーナーを狙うなどの工夫をしよう」と指示していたこともあり、ベンチから「ショートコーナーもあるよ」と中声で指示（大声だと敵にもばれるので）。しかし選手には顧問の試合前の指示を実行する気が見られず、試合中の中声の指示も届かない。「やれやれ・・・」と思いつつ、見ていると、松永がジャンプ一発！ヘディングシュートをゴールネットに突き刺し同点。初めて見る「小兵」松永のジャンプヘッドによる豪快シュートに、ベンチも沸く。顧問は「選手が自分の指示を聞かずにプレーしてくれて、良かった～」と胸をなでおろす。

しかし！2分後の39分、山東右サイドで敵をルーズにしたボールを左サイドまで展開され、ワンツーからのシュート。この美しい展開が山東ゴールネットを揺らし、再度、先行を許す。そしてそのままタイムアップ。

日大戦よりも良い戦いができたという充実感はありませんでしたが、同点にした直後に失点するといった拙い試合運びに悔しさがこみ上げました（サッカー解説者の風間さん曰く「ドイツ人が最も嫌う試合運び」だそうです）。やはり実力不足です。この夏、45分ハーフの試合（の連戦）をしっかりと戦い抜く技術・体力をつけ、一回り大きくなります（顧問は一回り小さな体を目指します）。

次節も早速ございます。応援よろしくお願ひします。

7月25日（土）VS 山形城北戦 山形商業グラウンド 14:00 キックオフ